

旧今井染物屋

旧今井染物屋は、江戸時代末期に建てられた、市内に現存する町家の中でも最も古く、最大級の町家です。

旧今井染物屋がある大町5丁目は、高田の城下町が造られた江戸時代から職人町としてあり、旧今井染物屋は染物屋を営み、多くの職人や使用人が住み込みで働いていました。

建物は棟が低く、屋根の傾斜が緩やかなため、外観の印象が軽快です。雁木は、古い形態の「造り込み式」で、通路の上部を物置や居住に使用していました。

屋根を軽量化し、太い柱に細い梁を整然と組んだ三間四方もあるチャノマは、天井が張ってはなく、吹抜の非常に高い空間で、技術的にも意匠的にも洗練された雪都・高田の町家の特徴を表しています。

保存状態もよく、高田を代表する町家として価値が高いことから、令和元年8月に上越市文化財に指定されました。



外観

地域文化の継承と発信

貴重な市文化財である「旧今井染物屋」の保存と、約130年続いてきた雪国高田の風土産業「パテンレース」を後世に残していくため、パテンレースを基軸とした常設工房を設置するとともに、地域文化の継承と発信の拠点として、令和3年4月に開館しました。

館内では、高田の町家の様子が見学できるほか、パテンレースや手仕事作家等による実演を見たり、制作体験をすることができます。

工房として利用できます

占用利用を希望する場合は、占用利用承認申請書を旧今井染物屋または文化振興課に提出してください。占用利用承認申請書は、上越市ホームページからもダウンロードできます。

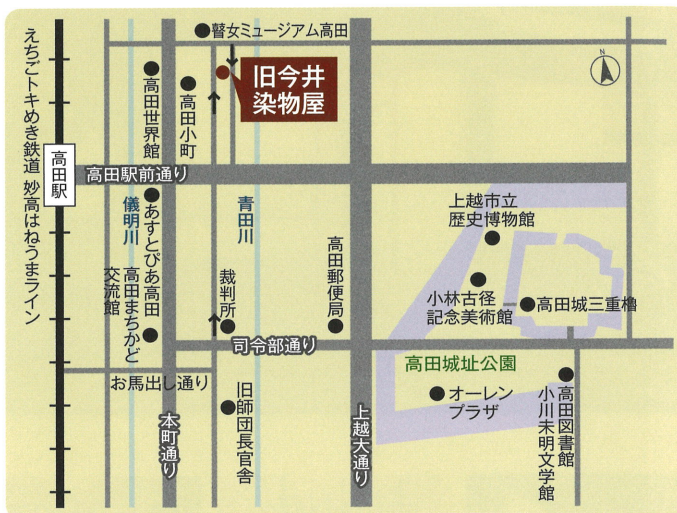
施設情報

- 開館時間 午前10時～午後5時
- 休館日 月曜日（休日に当たるときはその翌日）
休日の翌日
12月29日から翌年1月3日まで
- 入館料 無料

所在地・問い合わせ

〒943-0833 新潟県上越市大町5丁目5番7号

旧今井染物屋 TEL 025-520-9788



※←は一方通行

- アクセス — 鉄道でお越しの場合 —
えちごトキめき鉄道
「高田駅」から徒歩約10分
- 車でお越しの場合 —
北陸自動車道「上越IC」から約15分
上信越自動車道「上越高田IC」から約15分

- 駐車場 旧今井染物屋駐車場（19台、建物裏）をご利用ください。

発行 上越市 文化振興課

令和5年3月



■高田のバテンレースの歴史

上越地域でのバテンレースの生産は、明治31年(1898)に、横浜の飯島商会が高田に支店を出したことにより始まります。単作地帯で農閑期があることや、仕事が清潔で、家庭で内職としてできることから、女性に大流行しました。

旧今井染物屋がある大町5丁目は、明治から大正にかけて高田で栄えていた繊維業の中心地であり、特にバテンレースは高田の一大産業として隆起し、明治時代には新潟県が全国の1/4のシェアを占め、高田の人口の1/3が従事するほどの基幹産業でした。



戦争などの困難を乗り越え、全国で高田だけが約130年、産業として続いてきましたが、その高田でも、材料から製品まで一貫して制作する事業者は1社のみとなりました。

～バテンレース～



バテンレースは、ドイツのヘッセン州にあるバテンブルグという地名にちなんでつけられた貴族名が、名前の直接の由来といわれています。糸を幅1センチメートル程のテープ状に編んだ「ブレード」と呼ばれる縁飾りを、型紙のデザインに沿って組み合わせ、その内側にかがり縫いで模様を施すレース製品です。インテリアやファッション等に取り入れられています。

「生きている町家」を体感する。

高田の町家の特徴でもある高い吹抜空間から差し込む明るく、あたたかい光。人の動き、職人による手作業の音、昔懐かしい暮らしの様子や歴史を感じてみませんか。

■案内図



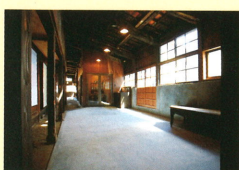
ミセ



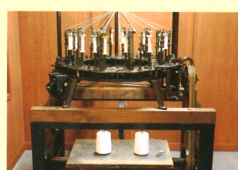
作業場1



作業場2



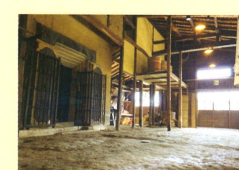
流し場



機械室



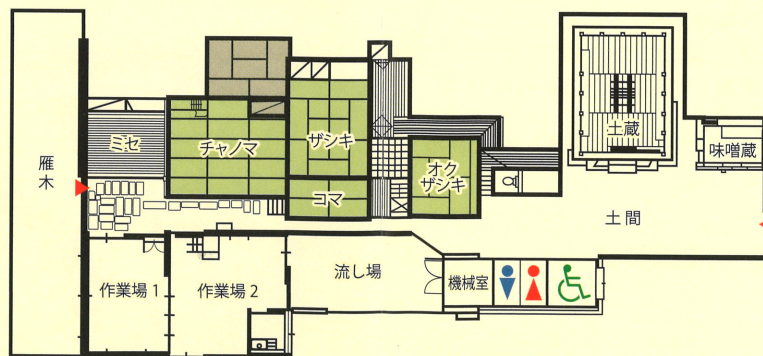
ザシキ



土間



雁木



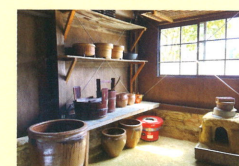
コマ



オクザシキ



土蔵



味噌蔵

■建物案内

■バテンレース常設工房

バテンレースの実演・体験・販売のほか、材料となるブレードを織る機械の見学ができます。

- ・ミセ
- ・作業場1
- ・機械室

■占用利用が可能な部屋

職人や手仕事作家等による占用利用が可能です。

- ・チャノマ
- ・ザシキ
- ・コマ
- ・オクザシキ
- ・作業場2
- ・流し場